

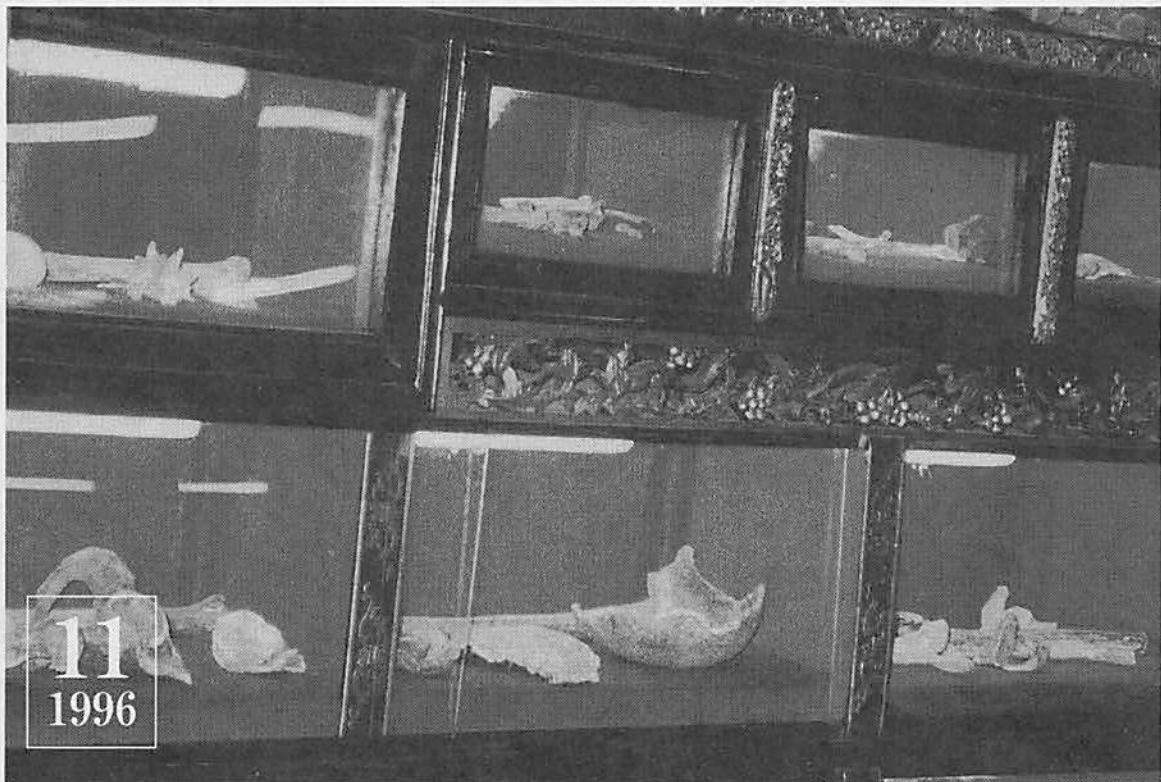
京都教区時報

カトリック京都教区ザビエルネット／アクセスNo.075-467-1676 ゲストID:GUEST 通信速度:1200-28800bps 通信条件:N,8,1,X,N
e-mail catholic@mbox.kyoto-inet.or.jp Home Page http://web.kyoto-inet.or.jp/org/catholic/

5頁 日本二十六聖人の横顔

第228号

田中司教認可
発行 京都司教区
責任者 村上透磨
京都市中京区河原町
三条上ル
カトリック会館
編集用 TEL・FAX
0775-27-6800
(滝野)



私達の信仰の原点

マカオに出かけて小さなフランシスコ教会を訪れる人は少ない。ここにはフランシスコの上腕の骨の一部や、日本の殉教者の遺骨が安置されている。この教会は迫害に追われた切支丹達の努力で建つたのだと言う。静かに声もなく、忘れた様に立っているこの教会に、私達の信仰の原点を祈りの中に見出す。

フランシスコ・ザビエルは、全世界の魂に主のいのちの喜びを伝えようとこのマカオに現れた。それは四百五十年前のこと。ザビエルの宣教精神を理解出来ない人は、この熱意を世界侵略の熱意と誤解する。でも私達にはわかる。彼の心に燃えていたのは東洋の征服ではなく、魂の救いであつたと。

彼の日本での宣教はむしろ失敗。そこで彼は上州島から中国本土の人々に福音を伝えようとする。そこで熱病におかれ帰天する。だが、彼の蒔いた一粒の種は大きな実を結ぶ。その一つが日本二十六聖人の殉教のあかし。

写真はマカオのフランシスコ教会内の日本の殉教者達の遺骨。

韓国におけるハンセン病の移動診療

聖ビンセンシオ・ア・パウロの愛徳姉妹会



託され、対象のハンセン病者は五百四十名でした。最初は週二回、医師・レントゲン技師を伴つての医療チームによる巡回は、午前六時三十分頃、京畿道(キヨンギド)を出かけ、ソウル市内を通り抜け北に二時間進みます。人々は山の麓とか不便なところに住んでいます。何故なら、政府から与えられた土地は未開の土地でした。

その人々は、不自由な手足で土地を開拓していきました。病気で感覚痺麻があるために、手足は傷つきやすく腐ついても気がつかず開墾しつづけ、その結果、発熱し手足の切断となつた方もいます。視力障害も加わってきます。上下水道の設備もなく不自由で、劣悪な生活環境の中で、やつとの思いで子どもたちを育ててきました。

●今も差別を受けている

子どもたちも大きくなると、都会へと出て行き、自分の出生、故郷を隠し、親を捨てることも多く、ほとんど両親の元に帰つてしまふ

ハンセン病者がいるといわれています。現在では、特效薬の開発などで早期治療を受けて治癒する人も多くなり、また高齢で死亡する人もあり、二万人足らずと言わされています。

私たちとハンセン病者の関わりは、一九七八年に県より、六カ所の定着村と十一カ所の保健所を委

力を入れる必要はない公的援助が少なく、他の福祉に力を注いでいるという傾向があります。彼、彼女らが、交通事故に遭つても、交通事故による傷は治療しますが、他の傷は放つておくるのです。彼、彼女らは、いつも沈黙のうちに差別を受け排斥されるのです。

●神様がその人のなかにいる

私たちには、この診療以外にもう一日、看護婦の治療チームをつくり、少しでも、その人々に人間の大切さ、生きていることの必要性、大切なものであるという意識と生きがいを持ったために活動を始めました。傷の治療と予防のために、バケツ、タライ、やかん、タオルなどをワゴン車に積み込み、彼、彼女らの所に向かいます。そこは設備がありませんので、私は一人一人の傷をタライで素手で洗い、そして膝の上に置いて治療をはじめていきます。

勇気と努力がいるのです。私たちは、この人々の努力と謙虚さ、頭がさがります。そこに、神様がその人のなかにいることを身にします。

傷の手当にも、一枚一枚のガーゼはきつちりと正確におられていました。外出において、大きな傷を小さく目立たないように手当を工夫するのもひとつコツです。

これらの移動診療がうまくゆくためには、陰で支えているボランティアグループがあります。日本から長期ビザで、全て自己負担で来ているボランティアもあり、愛を分かち合つてくださる方々、韓国在住の日本大使夫人を会長に、ボランティア組織「霜月会」があります。軟膏剤の材料費の援助、ある一日は、お弁当持ちで、ガーゼ折りなどの衛生材料作りなど奉仕してくださいています。こうした隠れた愛の輝きが、一人一人のハンセン病の方々の心にともしひの油となつていけたら幸です。

私たちの国に文化を伝えてくださいた韓国(朝鮮)は、関西空港からソウルまで一時間半。往復渡航費は六万三千八百円(9月4日調べ)と、近くて親しい国です。

マサヤカバ？（幸せですか？）

寺村めぐみ
(大和高田教会)

8月12日～23日までフィリピンで行なわれた、京都教区青少年委員会主催の青年アジア体験学習の感想文です。

●貧しさって何だろう

今、フィリピンで過ごしたあの十五日間を思うとき真っ先に思い出されるのは、楽しく平和で幸せだったホームステイでの日々だ。

私が滞在した村アビアウインの豊かな自然、ゆっくり流れる時間。

そして何より他人を受け入れる素朴な温かい心。誰でも家へお入り。家にテレビがないのなら私の家でいつしょに見ようよ。そういう心

が自然と満ちている彼らの生活に、受け入れてもらっていると実感した日々は忘れることができない。

その一方で、フィリピンにいるときから感じていた「わからない」という感情が、日がたつにつれふくらんでいる。確かに十五日間、

私達はマニラの豪邸に泊まり、スマラムへ行き、田舎の村に滞在し、貧富の差の大きさを身をもって感じた。加えてスマラムと田舎の村の貧困すら大きく異なっている現実を知った。



また、田舎の村での幸せな時間の中で「日本人はお金持ちだね」、「子供の学費を出してくれないか」といった現実的な言葉に、大きなショックを受けた。だが誰も彼女は言えない生活の中で、一度も満たされていないとは思わなかった。

しかし、やっぱりわからない。貧しさって何だろう。水道もガスもない小さな家の決して豊かとは言えない生活の中で、一度も満たされていないとは思わなかった。

でも日本での生活に比べると「貧しい」のだろうか。私は日本にいるときの方が「あれも欲しいこれも欲しい」と満たされない気持ちになる。

●幸せとは何なのだろう

また、政府が彼らの住むインフェンタに道路をつけ、港を開き、産業化をすすめる計画をしていると聞いたとき、正直言つてやめてほしいと思った。あの森を倒し海を汚し、さらには人々の心までも変えてしまふに違いない。だがその一方で、彼らが職を得て少しでも豊かになるであろうことも間違いない。だから「やめて」と私が思うのは外の人間だからだろうか。

彼らにとつて幸せとは何なのだろう。

一九九七年は精華、伊勢、大郡山、北白川、西舞鶴、大津の各小教区の聖堂の切り絵です。一部八百円、十部以上の場合は一部七百円です。カレンダーの利益は青年センターの活動資金になります。

京都カトリック青年センター企

柳本神父一九九七年 てづくり切り絵カレンダー

京都カトリック青年センター企

画、制作の柳本神父一九九七年でづくり切り絵カレンダー、予約受け付け中です。

一九九七年は精華、伊勢、大郡山、北白川、西舞鶴、大津の各小教区の聖堂の切り絵です。

一部八百円、十部以上の場合は一部七百円です。カレンダーの利

益は青年センターの活動資金になります。

希望者は、氏名、電話番号、住所を明記の上、青年センターまで申し込み下さい。

電話 075 (822) 6246

FAX 075 (812) 6685



大聖年を迎える準備に際して

大阪管区司教団

紀元二〇〇〇年がもう目の前に近づいています。教皇ヨハネ・パウロ二世は、「時が満ちると、神は、その御子を女からお遣わしになりました」(ガラテヤ4・4)というパウロの言葉を引用し、「世を救う受肉の秘義」の恵みとして、紀元二〇〇〇年に特別の意味を持たせ、「大聖年」と宣言されました。そして、過去を振り返り、心を入れかえ、祈り、学びながら、この大聖年を迎えるよう、全世界の教会にお勧めになりました。

日本の教会は、この準備の時期に、来年一九九七年には「日本二十六聖人殉教四〇〇年」をお祝いし、一九九九年には「ザベリオ渡来四五〇年」を迎えます。この期間には、特に日本の私たちが過去を振り返り、現在を見直し、未来を準備する、恵まれたよい機会です。

大阪教會管区の五教区、名古屋、京都、大阪、高松、広島の司教たちは、これから時代、一つ一つの教区が個別に自分の力で課題を取り組むだけでは、教会の使命を

十分に果すことができないと考え、大聖年を迎えるに際しても、管区内の五教区が協力し合って準備したいと思いました。そして、各教区の準備の状況や、これから計画などについて分かち合いました。

●各教区の取り組み

各教区の準備の状況については、名古屋教区は、教区の基本方針と優先課題を宣教司牧評議会で定め、それに沿った年間テーマを掲げ具体的に取り組んでいます。京都教区は、この秋に各小教区の五ヵ年計画の決定を目指しています。大阪教区は、大震災を契機に新生計画を打ち出しています。高松教区は、日本殉教者に学ぶ道を歩んでいます。広島教区は、司教協議会の設置した大聖年準備特別委員会の指針に呼応した準備を進めようとしています。

このように各教区は独自の計画をもち、その実現に努力しています。ですから、そこに管区として新たな課題を重ねて負担をかけるようなことがあってはならないと考えました。そこで、私たちは、「各教区はそれぞれの計画に取り組もう、しかし、その中で次の二つの観点をいつも頭にいれ、ともに大切にしていく」と申し合せ

ました。

●開かれた教会になる

一つは、「ザベリオ以来の福音宣教を第二バチカン公会議から振り返りながら」という観点です。

ザベリオおよびキリストンの時代の宣教は四〇〇年以上前の出来事であり、それ以来、日本の教会はそこから多くのものを学びつづけました。しかしながら、現代力

トリック教会の福音宣教の理解からすれば、どうしても改めなければならぬことも少なくあります。特に今から三十年前を開かれた第二バチカン公会議は、世界レベルでそれまでの教会の歩みを振り返り、「開かれた教会になる」ことを決断しました。この決断を私たちも大聖年を準備する中で大切にし、二十一世紀の教会を育て、福音宣教を推進することを目指すべきだと考えます。その意味で、べきだと考えます。その意味で、過去から現在に至る教会の歴史的な変化、発展を振り返りながら、キリストからいたいた福音をいつそう深く洞察するよう努めたいと

思います。

もう一つは、「日本の殉教者をもう一度見直す」という観点です。

日本の歴史に残る数多くの殉教者たちは、無名の方々を含めて、私たちの誇りであり、信仰をふるい立たせる模範です。しかし、かれらを過去の偉人として称賛するだけでは足りません。もともと「殉教」という言葉は、福音を「あかしする」という意味を持つています。現代人は、言葉による説明以上に、生き方による具体的なあかしを求めています。現代人が生き方を振り返り、福音に基づく決断とは何なのか、祈りのうちに学び、生き方を振り返り、あかしをすればなりません。

本の社会において、私たちが命までもかけるべき、福音に基づく決断とは何なのか、祈りのうちに学び、生き方を振り返り、あかしをすればなりません。

暦の上で新しい世紀が来ても、その日から物事が一度に変わるわけではありません。新しい世界の到来は、まず、救いの源である御父と救い主キリストと聖霊とのお働きの恵みによるものです。同時に、この恵みに支えられ、この恵みに感謝を込めて喜んでこたえ、回心の道を歩み、現実を変えていかねばならないのは私たちです。

私たちも、同じ教會管区の兄弟姉妹として、以上述べた二つの観点を共に大切にし、二十一世紀をほんとうに新しい世紀とできるよう力をつくしましょう。

日本二十六聖人の横顔

- ① 聖フランシスコ吉 京都。大工。逮捕されではないが、殉教者と行を共にしたいと願い、長崎への途中で捕らえられ、殉教者に加えられる。年齢不詳。
- ② 聖コスメ竹屋 尾張。刀剣師。受洗後、伝道士として大阪のマルティン神父を助ける。愛をもつて病人の世話をする。38歳?。
- ③ 聖ペトロ助四郎 京都。殉教者の世話をするようになると、京都のオルガンティノ神父から派遣されたが、途中、自分も縄を受け、受刑者の一人に。年齢不詳。
- ④ 聖ミカエル小崎 伊勢。弓矢師。宣教師の説教を聞き、信仰の道へ。フランスコ会第三会に入会。息子トマスと共に殉教。46歳。
- ⑤ 聖ディエゴ喜齊 備前。修道士。体をヤリで貫かれる時、小声でイエスとマリアの名を唱えた。64歳。
- ⑥ 聖パウロ三木 摂津。修道者。わたしは何の罪も犯したわけではござらぬ。キリストの教えを広めただけで処刑されますと群集に。33歳。
- ⑦ 聖パウロ茨木 尾張。弟レオン烏丸と共に貧者、病人の世話をし、布教に力を尽くす。死を前に

「神よ、あなたに命をささげます」と祈る。54歳。

し、賛歌を歌つて息を引き取る。

24歳。

⑧ 聖ヨハネ五島 五島。修道者。

父上も神の教えのまことを信じ、神にお仕えくださるようと言つて自分の口ザリオを父に渡す。19歳。

ド。修道士。ヤリで突かれる前、

- して仕える。司祭が逮捕の時、彼は除外されたが、捕らえるよう願い出た。「自分の十字架はどこ」と刑場で尋ねた話は今も語り継がれる。最年少者。12歳。
- ⑩ 聖アントニオ 長崎。父親は中国人、母は日本人。マルチノ神父に京都に連れて来られ、他の少年たちと共に教育を受ける。刑場に来て嘆く両親に、慰めと励ましの言葉をかける。13歳。
- ⑪ 聖ペトロ・バブチスタ スペイン。司祭。キリストにならつて両手を釘づけにされることを願つた。イエスとマリアの名を呼び息絶える。48歳。
- ⑫ 聖マルチノ・デ・ラ・アセンシオン スペイン。司祭。ヤリで体を突かれる時、大声で「主よ、わが魂を御手に委ねます」と叫んだ。30歳。
- ⑬ 聖フィリッポ・デ・ヘスス メキシコ。修道士。喜びの涙を流す。

- 14歳。40歳。44歳。
- ⑭ 聖ゴンザロ・ガルシア インド。修道士。ヤリで突かれる前、刑吏に悔悛と改宗をすすめたといふ。40歳。
- ⑮ 聖フランシスコ・ブランコ スペイン。司祭。十字架にはりつけられた時の顔は、微笑が死後も消えなかつたという。28歳。
- ⑯ 聖フランシスコ・デ・サン・ミゲル スペイン。修道士。若くしてフランスコ会に入会。貧しい人や病人の友となり、愛徳の実践者。53歳。
- ⑰ 聖マチアス 京都。家がフランスコ会修道院のすぐ近くにあつた。洗礼後、間もなく迫害が始まつた。洗礼後、間もなく迫害が始まつた。洗礼後、間もなく迫害が始まつた。46歳。

- 20歳。
- ⑱ 聖レオナルド・ダ・ヴィンチ ル小崎の息子。マルチノ神父を手伝う。信仰深い少年で、司祭になる希望を持ち、母親にあてた手紙は感動的。14歳。
- ⑲ 聖トマス・小崎 伊勢。ミカエルの息子。マルチノ神父を務める豊後の名、大友宗麟の侍医を務める。京都で洗礼を受け、聖ヨゼフ病院で活躍。46歳。
- ⑳ 聖ヨアキム・神原 大阪。最初医学を学んだ。ある日、宣教師のシタンの教えを聞き改宗。その後、フランスコ会の伝道士として働く。強い正義感の持ち主。36歳。
- ㉑ 聖ヨアキム・神原 大阪。最初医学を学んだ。ある日、宣教師のシタンの教えを聞き改宗。その後、フランスコ会の伝道士として働く。強い正義感の持ち主。36歳。
- ㉒ 聖フランシスコ・医師 京都。豊後の名、大友宗麟の侍医を務める。京都で洗礼を受け、聖ヨゼフ病院で活躍。46歳。
- ㉓ 聖トマス・談義者 伊勢。キリストの教えを聞き改宗。その後、フランスコ会の伝道士として働く。強い正義感の持ち主。36歳。
- ㉔ 聖ヨハネ・細屋 京都。織物師。修道院近くに住み、外国人宣教師と接觸の機会が多くその教えを聞いて洗礼を受ける。28歳。
- ㉕ 聖ガブリエル 伊勢。京都奉行に仕えていたが、改宗してフランスコ会に入り、司祭、修道士の仕事を手伝う。両親も信徒に。19歳。
- ㉖ 聖パウロ・鈴木 尾張。若くして洗礼を受け、フランスコ会の伝道士。通訳として外国人司祭の布教を助け、自らも説教師として活躍した。49歳。

お
知
ら
せ

三重地区の行事

- ◆新しい賛歌、テゼの祈り指導 2日19時30分。津教会。指導＝野下千歳師（カトリック研修センター）
- ◆殉教者のミサと講話 3日9時ミサ後講話。津教会。ミサ司式と講師＝野下師

二重研宗館の行事

- ◆暮らしの中のカウンセリング 毎月曜日10時～12時
- ◆韓国語講座 每木曜日10時～12時
- ◆茶道教室 每木曜日13時～15時

滋賀地区の行事

- ◆びわこウォーカソン 4日

京都北部地区の行事

- ◆カトリック墓地ミサ 3日14時。西舞鶴教会
- ◆結婚講座 10日、17日15時30分～18時30分。西舞鶴教会。講師＝ロジエ師
- ◆「絶えざる御助けの聖母を訪ねて」巡礼旅行 19日～25日。西舞鶴教会

京都南部地区の行事

- ◆自然治癒力健康法温熱療法 每金曜日11時～13時
- ◆正義と平和学習会「聖書講話」 9日14時～16時30分。講師＝本田哲郎師

奈良地区の行事

- ◆浦上切支丹流配者慰靈祭 3日。大和郡山教会
- ◆バザー 3日10時。大和高田

◆青年を対象とした「ローマの信徒への手紙を読んで聖書と親しむ」集い 7日、21日19時30分。

◆奈良カトリック協議会 14時～16時。大和郡山教会 17日

◆奈良八木教会

◆奈良県結婚互助会例会 14時～16時。大和郡山教会 17日

◆奈良

会。連絡075（781）124
5川原

◆連続講座「聖書の世界・ヘレニズム時代を背景にして」毎第一

金曜日19時。小山教会。講師＝伊藤照夫（産業大学教員）。無料。

◆おでんとさんの会 每火曜日

◆お茶代百円

◆聖書研究と手話の勉強 每木曜日19時30分

◆一般追悼ミサ 2日。河原町

◆藤原75（491）187

◆信睦二金会 8日。西陣教会

◆希望の家バザー 10日9時～

◆柳本神父の雑学講座 6日10時半。

◆みことば書道・絵画展 12日

◆Sr.アンタの書道教室 每金

◆バザー 10日10時15分。北白川教会

◆インドヘ友愛の手を！ チャリティーコンサート（5） 10日

◆親交会例会 17日11時ミサ、

◆14時。京都コンサートホール。連絡075（781）2049東へ

◆親交会例会 17日11時ミサ、

◆14時。京都コンサートホール。連絡075（781）2049東へ

◆力ナの会結婚相談室 3日13時受付。13時30分～15時

◆京都カトリック混声合唱団

◆在世フランシスコ会京都兄弟会例会 17日13時30分。フランシスコの家

◆ムラカミ 17日12時30分

◆レジオ・マリ工京都コミチウム

◆「一万匹の蟻」 20日19時

◆Sr.ドローレスの聖書講座 22日

◆キリスト研究会 24日14時

◆MAC運営委員会 28日14時

◆南信協婦人部 30日13時

西院カトリック会館行事

祝祭日休館。日曜日18時閉館

連絡075（822）7123福

音セントー

◆おでんとさんの会 每火曜日

◆聖書研究と手話の勉強 每木曜日19時30分

◆藤原75（491）187

◆信睦二金会 8日。西陣教会

◆希望の家バザー 10日9時～

◆柳本神父の雑学講座 6日10時半。

◆みことば書道・絵画展 12日

◆Sr.アンタの書道教室 每金

◆バザー 10日10時15分。北白川教会

◆インドヘ友愛の手を！ チャ

リティーコンサート（5） 10日

◆親交会例会 17日11時ミサ、

◆14時。京都コンサートホール。連絡075（781）2049東へ

◆力ナの会結婚相談室 3日13時受付。13時30分～15時

◆京都カトリック混声合唱団

◆在世フランシスコ会京都兄弟会例会 17日13時30分。フランシスコの家

◆ムラカミ 17日12時30分

◆レジオ・マリ工京都コミチウム

◆「一万匹の蟻」 20日19時

◆Sr.ドローレスの聖書講座 22日

◆キリスト研究会 24日14時

◆MAC運営委員会 28日14時

◆南信協婦人部 30日13時

これであなたもジョバニ通!

みなさん、こんにちは。こちらはジョバニ編集部です。ジョバニは、イタリア語で「若者たち」を意味する京都カトリック青年センターだよりの名称です。現在は二ヶ月に一度発行し、みなさまの教会へ、セッセと愛情をこめてお届けしています。



今年で創刊七周年、四十七号を迎えており、幾度かはみなさんの目にとまつことがあるかと思いますが、内容までは目が行き届いていないという方が多いのではないかでしょうか。私は青年はもちろん、中高生をはじめ青春を駆け抜けた行かれた方にも、是非ジョバニを読んでいただきたいと思っております。なぜかと申しますと、青年センターに集まる人間というのは限られたものであり、各小教区にいる他の青年との意思疎通や交流はどうしても十分なものとは言い難いから

ジョバニ編集長

山口雅広

です。

そこでそれを少しでも補うためにも、青年による青年のための企画を提案したり、貴重な体験をされた方にはそのことを報告してもらい、それを特集することによって分かち合

(((((あんてな

みことばをかこう書道・絵画展

今年も、聖書週間行事としての「みことばをかこう書道・絵画展」

が、十一月十二日～二十四日まで、西院カトリック会館ホールで開催されます。又、昨年同様三重県カトリック研修館でも開催を予定しています。

昨年の出品参加者は、成人が百

十点、児童が百七八十八点、計二百八十八点。この他、聖母カテキスマ会員の上本白水先生の書画七点が、特別出品として会場を飾って下さいました。

それもひとえに記事を通じて私達が何を考えているのかということを様々な人に広く知つていただきたいと願つてお待ちしております。

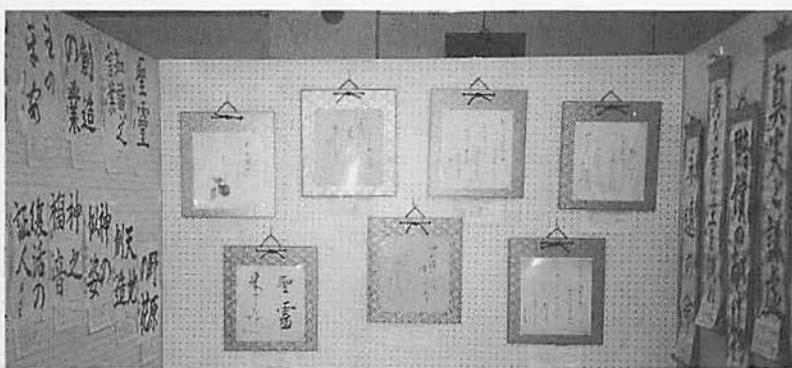
毎年協力して下さる聖家族女子高校生、ノートルダム小学校生、沖縄海星小学校生、亀岡、唐崎、大和八木、高野の諸教会からの素晴らしい作品に加えて、昨年は大阪教区の大東教会、門真教会から作品が寄せられ、この行事が教区を越えたものになって来つつあることに喜びを感じています。

「神の園」「のぞみの園」「希望の家」からは、九十四歳を最高に、九十年代、八十年代のお年寄りの方々が五十人程、「いのち」の輝きを披露して下さいました。

展示終了後、チエーンにかけられる作品の五十点程を津に送り、

三重県の方々にも観ていただきました。

神のみことばを表現した作品は、素材そのものが素晴らしいために、展示会も独特のよさをもつていています。みことばを味わい伝えるために、今年もどうぞ参加下さい。



教区スケジュール

11月

3日 (日) 合同墓参	衣笠墓地・大日山墓地
4日 (月) 教出席	(スヴェール愛徳修道会)
7日 (木) 司祭全体集会	
8日 (金) 宣教司牧評議会	常任委員会
9日 (土) 教区会計説明会	
10日 (日) 聖人殉教四百年祭	七・五・三祝福
14日 (木) 司教顧問会	
17~24日 聖書週間	
23日 (土) 百年祭	日本二十六聖人殉教四百年祭
24日 (日) 記念ミサ・アジア交流の日	教区一斉京都教区創立記念ミサ
28日 (木) 司祭評議会	

お知らせ

- ◆帰天 マッケーシン師(メリノール宣教会)。8月27日
- ◆電話新設 精華教会 0774 (95) 3124
- ◆日本二十六聖人殉教四百年祭 23日。ノートルダム女子大学ユニアソン会館
- 【第一部】10時30分、開会式。
- 11時、記念講演「道が京都からはじまった」。講師＝結城了悟師

- ▼青年センター休館日
- 2~24日
- 2~24日
- 2~24日

(日本二十六聖人記念館館長)
写真と遺物を展示了「キリストン展」と「子どもコーナー」も

開設

【第二部】

13時30分、「二十一世紀の福音宣教に向かって」と題し

たビデオ上映。14時30分、二十六聖人殉教四百年祭ミサ

◆福音センター養成コース

▼祈りのコース(2)

8日~10日

ノートルダム唐崎祈りの家。内容＝自分に聴き、神に聴く。内

面からキリストに回復していく。

▼祈りのコース(2) 8日~10日。ノートルダム唐崎祈りの家。

定員十五名。一万七千円。申込075(882)7123

◆青年センターよりお知らせ

▼LOOK AT ME! 行

75(882)7123

青年センターよりお知らせ

▼LOOK AT ME! 行

75(882)7123

青年センター休館日

2日、4日、5日、12日、16日、19日、23日、26日、30日

◆正義と平和京都協議会学習会

小笠原亮一さんを迎えて(日本基督教団北白川教会牧師)。16日

19時。河原町カトリック会館。連絡075(223)2291

青森より一九六四年に京都の大

学にこられた小笠原さんは、キリ

スト教信仰の中、京都の崇仁地

区の子どもたちに惹きよせてこら

れました。以来三十数年、崇仁地

区に生活する中で、多くの部落の

青年や子どもたちとの交流をとお

して、多くのことに取り組んでこ

られました。このたび青森の方に

帰られるようになりました。今ま

で近くにいながらおいでいただく

機会のなかつた、小笠原さんにお

話をうかがい、ともに差別とたた

かう思いを、交流しあうことがで

きればと思います。

◆聖書講演会 「詩編8、16」

お知らせに載せたい行事の情報

は、12月号でしたら11月4日まで

に、1月号でしたら11月30日まで

に、FAX0775(27)68

00にお願いします。

◆電話番号情報コーナー

▼いのちの電話 (相談窓口)

075(864)4343

0742(35)1000

052(971)4343

075(662)3971

075(781)5884

◆「詩編19」奥村一郎師、3月13日「詩編40」奥村一郎師、毎回10時~12時、五百円
◆日本力トリック研修センター
祈りの集会 12月6日~8日。内容=祈りの集いの研究。信徒、修道者、司祭対象。定員三十名。二万円。連絡052(831)5037
◆正義と平和京都協議会学習会
基団北白川教会牧師)。16日
19時。河原町カトリック会館。連絡075(223)2291
◆「一万匹の蠍運動」基金報告
累計13、291、536円
加入者 851名
(9月17日現在)
◆編集部よりお知らせ
お知らせに載せたい行事の情報
は、12月号でしたら11月4日まで
に、1月号でしたら11月30日まで
に、FAX0775(27)6800にお願いします。
◆電話番号情報コーナー
▼京都市東九条在宅介護支援
センターカトリック(24時間体制)
セントラル(24時間体制)
▼北白川教会小聖堂内納骨堂